

## 2 中高連携授業変革の歩み

### (1) 岐阜市立長良中学校における実践

#### < 授業実践 >

##### 授業実践に向けての構え

『「基礎・基本」の定着』、『「ひびきあい」を大切にしたい授業の構造化』、『「ひびきあい」を支える学習集団の育成』の3点を重点として、昨年度より実践してきた。今年度は昨年度以上に「基礎・基本」の定着を図るために、『単元の「基礎・基本」を明確にする』、『単元のねらい、本時のねらいの明確化』、『単元の構造化』の研究実践を進めていく。

「ひびきあい」・長良中学校の研究構想に位置付けている言葉で、英語においては、お互いの表現を交流し合うことを通して、仲間の表現のよさに学び、よりよい表現へと深まっていく過程のことを「ひびきあい」と呼んでいる。

#### 第1回授業交流研究会

【日 時】 平成14年6月10日(月)第5校時

【研究授業】 2年2組 New Horizon English Course 2 「Yumi Goes Abroad」

#### 【提案内容】

##### (ア) 帯活動による基礎・基本の徹底

・「弾丸インプット」・運用させたい言語材料の定着を図るため、ペアで繰り返し発話し合う活動等を、短時間で集中的にインプットすることから「弾丸インプット」と名付け、毎時間の授業の冒頭に位置付けている。

・「イメージネーションゲーム」・提示された言葉について連想できるヒントを相手に伝え、その語を話させる活動を通して、表現力を育成する活動

##### (イ) 「より実践的な場」を言語活動の中に位置付ける

単元前半で身に付けてきた「基礎・基本」を活用して、言語の運用力を高める言語活動を位置付ける。本時では、オーストラリアのエアーズロックの魅力を聞き手に伝えるポスターセッションの活動を通して、「be going to~、show AB、call AB の表現方法とともに形状やそこでの行動についての既習表現を活用して事物を詳しく説明する力」に迫った。

#### 第2回授業交流研究会

【日 時】 平成14年11月15日(金)第3校時

【研究授業】 3年4組 New Horizon English Course 3 「An American Rakugo-ka」

#### 【提案内容】

##### (ア) 帯活動による基礎・基本の徹底

・「弾丸インプット」・運用させたい言語材料の定着を図る。一人一分。ペアで行う活動。

・「イメージネーションゲーム」・提示された言葉についての連想できるヒントを相手に伝えその語について説明する活動を通して、表現力を育成する

・「不規則変化動詞の活用」・現在、過去、過去分詞の一まとまりを順に発話していく。学級の全員が最低1回はクラスの手本として発話する。

##### (イ) 「より実践的な場」を言語活動の中に位置付ける

前回の活動と同じ、ポスターセッションであるが、「話し手」と「聞き手」が入れ替わったり、相手の話に対して、すぐに自分の反応を返さなければいけない状況を生み出したりすることを意図した。すなわち、従来の「フレーム」を活用した言語の運用ではなく、どの言

語材料を使えばよいのかの選択を、自分自身でできるよう工夫、改善した。

#### 【授業研究会】

(ア) 少人数指導のよさを生かし、個に応じたきめ細やかな指導の必要性

(イ) 中学校で、基礎・基本を徹底して指導していくことの必要性

(ウ) 成果と課題

- ・人と人が言葉(英語)を通してかかわっていこうとする心地よさを感じたり、魅力を感じたりする生徒がたくさんいることがよかった。
- ・学習課題を解決していこうとする生徒の姿勢が、相手の質問に対して、既習事項等を精一杯活用し、英語で対応する姿になっていた。生徒の意欲を高める課題の生み出しに教師は工夫し続ける必要がある。
- ・帯活動をさらに発展させていく必要がある。「弾丸インプット」は mechanical drill だがこれを発展させて、meaningful drill にすることはできないか。

<グローバル・スタンダードによる英語力診断>

【日 時】 平成14年7月24日(水)

【受験人数】 スターターズ15名 ムーバース21名 フライヤーズ14名 計50名

「受験した生徒の感想」より

スピーキングのテストは、試験官の先生と一対一で行われました。絵を見ながら話したり、自分のことや家族や友だちのことを話したりしました。緊張したけどとても楽しかったです。こういうテストもいいなあと思いました。機会があればまた挑戦したいです。

<イマージョン・プログラム>

本校の実施状況

スピーチコンテスト出場生徒への発音指導

総合学習「トライアングル長良～International Exchange～」での交流・指導

英文図書を購入し、選択英語で活用

スピーチコンテスト出場生徒への発音指導

【日 時】 平成14年7月25日、26日、31日、8月9日

【場 所】 長良中学校図書館

【講 師】 キャサリン・マーフィ(岐阜市在住オーストラリア出身)

ベリンダ・パーセル(岐阜大学留学生、オーストラリア出身)

【指導内容】 英語原稿のチェック、発音指導など

総合学習「トライアングル長良～International Exchange～」での交流・指導

#### 第1回

【日 時】 平成14年10月4日(金)

【場 所】 長良中学校光の間

【講 師】 ベリンダ・パーセル(岐阜大学留学生) マシュー・コーワン(岐阜大学留学生)

【対象生徒】 30名

【指導内容】 自己紹介、歌、ゲーム、スキットで交流

## 第2回

【日時】 平成14年12月20日(金)

【場所】 長良中学校光の間

【講師】 マウロ・ナカヤ(岐阜大学留学生、ブラジル出身)

グリフィン・ゲイル(岐阜大学留学生、アメリカ出身)

トビアス・フリーデル(岐阜大学留学生、スウェーデン出身)

【対象生徒】 30名

【指導内容】 自己紹介、歌、ゲーム、スキットで交流

「活動後の感想文」より

- ・マシューさんと交流して、オーストラリアのフットボールのことを教えてもらいました。僕はスキット「クイズ・ミリオネアー」で日本の文化を教えてあげました。いろいろ話をして、お互いのことをよく知り合えたと思いました。英語を話すことが楽しくなりました。
- ・スキットは練習の時ほど上手にできなかったけれど、グリフィンさんやトビアスさんに、“It’s great!”と言ってもらえて本当にうれしかったです。自分が話したことが、相手に分かってもらえて、やってよかったなあと思いました。

英文図書を購入し、選択英語で活用

「レディバード・ジュニア英語名作ライブラリーシリーズ(全30巻)」「レディバード・ディズニー童話(全22巻)」を購入し、選択英語(発展コース)において、reading time を設けた。その中で、未習単語があっても辞書を引かずに文脈から類推したり、絵から類推したりしながら読み進む活動を行った。

<成果と課題>

成 果

- ・各務原高等学校の公開授業を参観して、高等学校で行われている、LL教室を活用した speaking 技能を伸ばす発展的な学習を支えているのは、中学校で身に付ける「基礎・基本」であることを再認識した。先生方との授業交流、実践交流を通して、中学校の段階でどのような指導をしていくことが大切なのかを知ることができ、現在その実践を進めていこうとしている。
- ・外国人講師を活用してのコミュニケーション能力の向上を図る取り組みを通して、徐々に生徒たちの英語学習への意欲が向上してきている。特に、自分の思いや考えを積極的に相手に伝えていこうとする姿が増えてきた。

課 題

- ・年に2回ずつの中学校と高等学校の交流であるが、さらに研究内容を基礎・基本の習熟の指導の在り方に焦点化することによって、お互いの研究を継続的に交流する必要がある。
- ・生徒の意欲を高める言語活動の生み出しのために、自分の思いや考えを相手に伝えたいと強く思えるような場面設定や、相手と交渉したり質問したりすることで課題を解決できるよう場面設定を、今後さらに工夫する必要がある。